

①旧戸倉庁舎(10:00~)→②水上布奈山神社→③坂井銘醸→④佐良志奈神社→①へ(12:00)



### 【戸倉地域の概況】

- ① 戸倉地域は千曲川河東の氾濫原に形成された集落で、古くから水害との戦いの歴史がある。
- ② 慶長16年高田藩主松平忠輝が、北国街道を整備し、戸倉宿を設けた。戸倉宿には大名が泊まることはなかったが、街道の主要駅として賑っていた。明治26年信越線開通で戸倉宿はさびれた。
- ③ その後温泉発見と戸倉駅開業で戸倉上山田温泉の地元として発展。



### ② 水上布奈山神社

水上布奈山神社の神社創建の時期は不明であるが、下戸倉宿の現在地にささやかな社殿をたて、建御名方神(たけみなかたのかみ)を勧請し、鎮守と名づけ諏訪社として、あがめ祀った。

この神社を一躍有名にしたのは、彫刻の見事さである。作者は柴宮長左衛門で、5年の歳月を費やして寛政元年(1789)4月に完成した。長左衛門42歳で、当神社にはその代表作がある。

【飯盛女の献灯】戸倉宿に働く飯盛女52名が境内にある稲荷社の前に、高さ159cm、最大幅75cmの夜灯が献納されている。



### ③ 坂井銘醸

坂井銘醸は江戸時代の初期、慶長の頃から酒を造っていたという歴史ある酒造所。数多くの酒蔵と倉の一部に加舎白雄館、夢二絵画館、酒造資料室などを併設。これに母屋・萱の庵を加えて構成されている。現在残っているかやぶき屋根の母屋は、宝暦10(1760)年に建てられたもので、230年以上の歳月を経ている。そば処「萱」として営業している。



### ④ 佐良志奈神社

延喜式内社、創建は不明だが433年頃に允恭天皇が命じて建てさせたと伝わる。現在の鳥居は東側に向けて建っているが、かつてそこは千曲川の流れを背にした裏側だった。古くからの戸倉宿と明治になって開湯した上山田温泉とを結ぶ大正橋の架橋で表側とされるようになったもの。

【宝篋印塔】(逆襲塚)佐良志奈神社境内にある宝篋印塔。南北朝時代宗良親王に従い戦に出掛ける人が建てた墓。境内には永和2(1376)年銘の古い石塔が残されている。